

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2242号

2015年01月05日(月曜日)

## 《 A Happy New Year 》

今日はまだ朝の段階では筆者が多分「モスクワからの機上」のこともあり、2015年のご挨拶と今週の予定だけです。

難しい年でしょうね。年明けのニューヨーク株式市場が既にそうであったように。上がっていると思ったらちょっとしたニュースで大きく反落し、その後パワフルに戻して全体的にはまちまちの動きで終わった。要するにとっても神経質なのです。「この神経質さが続くだろう」と見るのが可能な理由はいっぱいある。日欧の「もっと深化するかも知れない金融緩和策」と、顕在化するであろうアメリカの「引締策」。こんな「世界経済の組み合わせ」は珍しい。

過去を振り返るなら、「(特にアメリカの)金利が上がり始めるとき、マーケットがスムーズに流動性相場から業績相場に移ったためし」はない。だから、株は相当「今自分達はどこに居るのか」の試行錯誤を繰り返すに違いない。年明けのニューヨークの株の動きを見て、「もしかしたら今年一年の相場の縮図かも知れない」と筆者は思いました。

対して為替では、アメリカの金利上昇が全体的にはドルを強くすると思われる。そう多くの人が思っている。しかし「そう思う方向」に相場が行くことは滅多にない。過去の例からみるとそうです。としたら、結構違う展開も予想される。金利は確かに為替には大きな要因ですが、それだけでは動かない。今のアメリカの「静かなるドル高放置」がいつまで続くかも大きなポイントで、その面ではアメリカ経済の強さの持続性が大きな要因になる。その点では第一関門の2014年12月の米雇用統計が今週末に発表になる。

ヨーロッパはどうなるのか。この年末年始は主に筆者はイタリアにいましたが、「(国民の多くが)クリスマスのプレゼントさえ抑制する」厳しさの中にある。そのイタリア出身のドラギはそのヨーロッパの金融政策の舵取りをどう取るのか。ドイツなどの反対をどう乗り切るのか。マーケットの動きを見ると、対ドル、対円でユーロは下げに転じている。旅行中ずっと弱いユーロを目にしました。むろん過去一年日本に来た旅行者が目撃した円安ほどのスピードではないのですが。特に対ドルでは1ユーロ=1.2ドルを割りそうところで年明けしている。

ヨーロッパと言えばギリシャも問題です。直近の独誌シュピーゲルは「ドイツはギリシャのユーロ離脱の覚悟は出来ている。影響も小さいからと判断しているから」との記事を掲載した。ギリシャの総選挙は今月中ですが、実際に急進左派連合が政権を取れば、ギリシ

ヤのユーロ離脱は現実化の可能性がある。その場合、ユーロはお荷物の一つであるギリシヤの負荷がなくて強くなるのか、それとも「“ユーロという制度”の一角の崩壊」を嫌気して弱くなるのか。まだ判断は出来ない。

新興国、特に中国はどうなるのか。腐敗の一扫という理由で次々の政敵を掃討する一方で、上海で多くの人々が亡くなった年始の騒動のマスコミによる当局への責任追及も許さないといういびつな制度。環境問題は深刻化し、経済活動は萎縮もあって弱くなっている。話題は尽きない。

ま、いつも通りの「難しいマーケット」の始まりです。

---

今週の主な予定は以下の通り。

- |             |   |
|-------------|---|
| 01月05日（月曜日） | 2014年と12月の軽自動車販売台数<br>（全国軽自動車協会連合会）<br>2014年と12月の新車販売台数<br>（日本自動車販売協会連合会）<br>14年12月の米新車販売台数（オートデータ）<br>政治安倍晋三首相が伊勢神宮参拝、記者会見<br>東証大発表<br>米家電見本市CES開幕（米ラスベガス、9日まで）<br>14年12月のマネタリーベース（日銀）<br>経済3団体トップ会見<br>経済3団体新年祝賀パーティー |
| 01月07日（水曜日） | 14年11月のユーロ圏失業率（EU統計局）<br>14年11月の米貿易収支（商務省）<br>14年12月のユーロ圏消費者物価指数速報値<br>国際英中銀金融政策委（8日まで）<br>国際米連邦公開市場委（FOMC）議事要旨<br>（14年12月16－17日分）<br>民主党代表選告示  |
| 01月08日（木曜日） | 14年と12月の車名別新車販売台数<br>（自販連・全軽自協）<br>経済生活意識に関するアンケート調査（日銀）  |
| 01月09日（金曜日） | 14年12月の米雇用統計（労働省）<br>タイ立法議会がインラック前首相の弾劾審議開始<br>14年11月の景気動向指数速報（内閣府）<br>14年と12月末の全国銀行預金・貸出金速報<br>（全国銀行協会）  |

## 《 have a nice week 》

年末・年始はいかがでしたか。日本は大変な雪だったとニュースで見ましたが、私がいたイタリアは寒い、「いつもこの程度だろうな」と思える寒さでした。あまり東京と変わらない。イタリアに関してはまた書くとして、今回の旅で一番「これがあって助かった」と思ったのは、やはり「グーグルマップ」でしょうか。どこに行くにも複雑な道をしっかりとガイドしてくれる。加えてタクシーの運転手が正しい道を通っているのかも検証できる。

だってローマはまだしも、フィレンツェでもベネチアでも旧市街は本当に道が入り組んでいる。あれを「地図を頼りに歩く」というのは時間がかかりすぎる。無理ではないですし、街の楽しみ方としては「あり」なのには賛成です。しかしやはり「時間」がある旅には、「どこどこまで歩いて何分、車（タクシー）で何分、電車で何分」というのが分かるのは非常に便利。しかも時間計測をまず間違わない。

海外の街は「なるべく歩く」主義の私は、おおよその所要時間を調べるときにはまずiPhoneに情報を入れて見るし、さらに「何時までにここに行きたい」と言うときには「現在地からの経路」と「所要時間」を表示させます。それでナビ開始させて行動を起こす。また海外のタクシーは「回り道してんじゃないか」という心配もあるし、多少の回り道は地元還元で良いとして、「必要以上に時間がかかる」のは許せない。なので最近では、マップに目的地を入れておいて、それをタクシーの運転手に見せることにしている。

彼等もそれを歓迎する。やはりちょっと違う発音で地名を聞くと問題が起きることがあるし、乗ってくる人の現地把握の程度を知ることが出来る。むしろ「smartphone-aided」ですが。お互いのレベルが知れて、逆に一種の連帯感が生まれる。ナビ音声を出した状態でタクシーをスタートさせると、結構彼等も聞いていて、話題が出来る。面白いですよ。タクシーの運転手も、「まっとうな道を進もう」という気になるというものです。

海外で使っても、最近のグーグルマップは表示が日本語化されているし、日本語化されていない所でも、現地の綴りで目的地を入れればほぼ正確にその行く先を認識できる。ベネチアもフィレンツェも非常に狭い道が多いのですがほとんど迷うことなく動けました。使い方も別に誰かに教わったわけではない。使っていれば分かる。それも便利です。

それでは皆様には良い一週間、良い一年を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》